

# NEWS LETTER

Vol.13  
2026.5



## 干潟に残された あしあと

干潟にはたくさんの生き物の痕跡が残されています。巣穴の形からどのような生き物がすんでいるのかすぐにわかる人もいれば、足跡を見ただけで、大体の鳥の種類を当ててしまう人もいます。

この左側の写真は、キアシシギの足跡でした。

右側の写真は、調査員の足跡。泥に埋もれながら歩いていますが、慣れてくると泥表面を浮くように歩けるようになる…かも！？

## 今月のおさかな ～イシガレイ～



東京湾の干潟にはマコガレイとイシガレイの稚魚が出現しますが、沖の深場の泥地で産卵するマコガレイに対し、イシガレイは浅い砂泥地で産卵します。埋め立てによりそのような場所が激減したため、東京湾では少なくなってしまったイシガレイ。

多摩川河口干潟には泥っぽい場所もあれば砂地もあり、多様な環境が残されているからこそ、多様な魚や生き物が集まる場所になっているのだと、改めて感じました。ちなみによく似ているマコガレイとイシガレイの見分け方は意外と簡単なので、ぜひ調べてみてください。

## 今月の人気者 ～シラウオ～



今年の冬に産まれたシラウオの幼魚が採集されました。

調査を始めてから、多摩川河口干潟では毎年みられるようになってきたシラウオですが、まだ多摩川河口干潟での生活史は調査中。

いつ、どのくらいの大きさのシラウオが採集されるのか、調査員も目をキラキラさせながら、網の中の魚をのぞき込んでいます。

東京海洋大学の学生さんが一 생명調査データをまとめているのでお楽しみに！